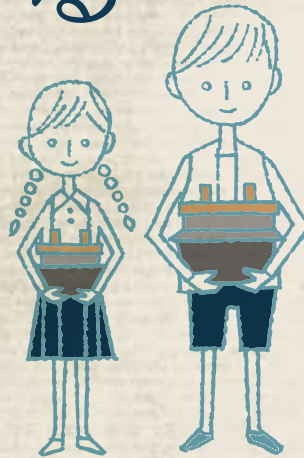


楽

Sapporo Education and Culture Hall News

RAKU

今こそ考える 宮沢賢治の生き方



札幌市教育文化会館

札幌市教育文化会館情報誌「楽(らく)」は舞台芸術を気軽に楽しんでいただきたいという思いを込めて名付けられました。



当初、この3年目の修了公演では、過去2年間で稽古してきた「注文の多い料理店」を上演する予定でした。ところが3月11日に東日本大震災が起きてしまい、いま取り組むべきなのは「注文の多い料理店」じゃないな、と思ったんです。この物語は高慢なエリート官僚が森の中に入っていく、大自然の象徴である山猫にしゃべり返しを食らうという話です。でも、僕らは震災によって既に大きなしっぺ返しを受けてしまったんです。それをもう一度芝居として上演する気にはなれなくて、演目を変えようと思った時に浮かんできたのが「グスコブドリの伝記」です。東北人の宮沢賢治は、地震が多いこの国で、明日の農業を守る方法としてどんな発電所が可能かを、一生懸命にこの物語の中で描こうとした。ある意味、日本人は地震のある国で何千年も過ごしてきたので、震災自体は乗り越えていけると思うんです。でも、エネルギーに関する問題はどうか考えていけばいいか、みんながわからない状態です。僕自身もまだ答えを見つけていません。実際に演じる役者の中にも様々な意見があるので、この芝居の中でひとつの答えを出すというより

は、作っている中でエネルギーの問題とはなんだったのかということを考えていきたい、と思っています。今回、急に演目を変えることになったので、札幌市教育文化会館さんに確認を取ったところ、即答で「グスコブドリの伝記」でいきましょう」とおっしゃっていただけました。その際、ひとつだけお願いがある、といわれたのが「必ず未来に希望が持てる内容にしてほしい」ということでした。色々な考え方はあるけれど、僕たちはこの作品でい未来を作っていくという気持ちは表現したいと思っています。芝居の始まりは、ガレキの中から人形たちが立ち上がるるところから始まる予定です。真面目に考えるシーンもあります。エンターテイメントとして笑って楽しめる作品を作っていますから、今までの集大成として、楽しみに観に来ていただきたいと思います。



INTERVIEW

沢 則行インタビュー いまFAT!Sが「グスコブドリの伝記」を演じる理由

FAT!S(フィギュアアート・シアター!札幌)
札幌市教育文化会館プロデュースによる3年にわたる人形劇のプロ養成プロジェクト。

【人形劇師】

沢 則行 プロフィール
Noriyuki SAWA

小樽市出身。北海道教育大学特別学科(美術・工芸)教員養成課程卒。1991年に渡仏。92年に文化庁在外研修生で、チェコへ。プラハを拠点に、世界各国で公演。また、チェコ国立芸術アカデミー演劇・人形劇学部、米国スタンフォード大学演劇学科、シカゴ大学、ロンドン人形劇学校など、多くの教育の現場で講座、ワークショップを指導した経験を持つ。2009年、セルビア・スポティツァ国際児童演劇祭で、演技賞、音楽賞をダブル受賞。2011年には、一人芝居「NINJA」とその他の小品集」にポーランド・カトヴィツェ市よりEU文化都市賞が贈られるなど、国際的受賞多数。

SAPPORO × SAWA ワークショップ フィギュアアート・シアター役者養成講座

FAT!Sが3年間の集大成をいよいよ公開

FAT!Sは、アートディレクター・講師にチェコ在住の人形劇師・沢則行を迎え、2009年から活動を開始。チェコで生まれた人形劇の新しいスタイル「フィギュアアート・シアター」のワークショップを続け、2011年には円山動物園で「注文の多い料理店」、札幌市教育文化会館 大ホールで「イオランタ〜盲目の姫」を上演。人形劇の一般的概念にとらわれないオリジナリティーにあふれた作品を創りだしました。プロジェクト3年目の今年、修了公演として「グスコブドリの伝記」を創作中。ワークショップの粋を超えた新たな表現者たちの舞台を大ホールにてお楽しみいただけます。



フィギュアアート・シアター
[ワークショップ修了公演]
KENJI サッポロ 2011
グスコブドリの伝記
原作/宮沢 賢治
演出/沢 則行
作品創造・出演/FAT!S
(フィギュアアート・シアター!札幌)

2011年10月8日(土)・9日(日) 14:00/18:00 (各日2回公演)
札幌市教育文化会館 大ホール

料金 全席自由:2,500円 教文ホールメイト 2,000円
(舞台上仮設 全250席)

【チケット取り扱い】 教文・大丸プレイガイド・チケットぴあ・ローソンチケットにて発売中

【教文プレイガイド】 tel.011-271-3355

【お問合せ】 札幌市教育文化会館 事業課 tel.011-271-5822



自然と人間を愛した作家

今こそ考える

宮沢賢治の生き方

川底の蟹の兄弟を描く「やまなし」「生きるために虫の命を奪うことを悩む「よだかの星」、ジヨバンニとカムパネルラが旅する「銀河鉄道の夜」、獵に出た人間が逆に食べられそうになる「注文の多い料理店」など宮沢賢治の独特の感性に触れた方は多いことでしょう。しかし、その作品の多くは賢治の死後に発表されたこと、本人が原稿料を手にしたことは一度しかなかったことはあまり知られていません。

この頃の岩手県は地震以外にも冷害や凶作が繰り返され、生活に困窮した農民達が、生きるために家財道具を父の経営する質店に売りに来る姿を、賢治は数多く目の当たりにします。また、小学生の頃に友人が川に流され亡くなったことや最愛の妹の死、謄写版印刷技師、稗貫農学校(現・花巻農業高校)教師などの経験は、賢治に多くの影響を与え、作品のモチーフともなっています。

賢治の作品には「命」や「自然」が多く描かれています。自己犠牲」というテーマも多く記されています。今回、フィギュアアートの演じられる「グスコブドリの伝記」のテーマのひとつでもあります。原作は、自分の命を犠牲にしてまで人々の生活を守る青年ブドリの、少年時代からの生き様が描かれたストーリー。どこか賢治の生き様と重なる物語です。賢治は、有名な「雨ニモマケズ」を手帳に記した翌年の昭和八年(1933年)に急性肺炎のため37歳の若さでこの世を去りましたが、その前日にも、夜遅くまで農民から肥料の相談を受けていたといわれています。そして、亡くなった年には生まれた年と同じように三陸沖で大きな地震が発生しました。

誕生した年と亡くなった年に大きな地震があり、生きている間は命や自然を書き続けた賢治。今、もしも彼がいたら愛する地元東北の人々にどんな言葉をかけ、どんな行動をするのでしょうか。

「オーデュボンの祈り」公演記念特別メニュー

荻島御前 おぎしまごぜん

ロイトン札幌 日本料理 大和(B1F)

札幌教育文化会館から徒歩3分。ロイトン札幌では舞台「オーデュボンの祈り」公演を記念し、劇中に登場する「荻島」にちなんだランチメニュー「荻島御前」が登場。ご注文の際はチケットの半券をご提示下さい。4名様以上のご予約で、落ち着いた和のしつらえの個室の利用も。観劇、食事と大人のひとときを満喫できます。公演翌日から10月末まで。



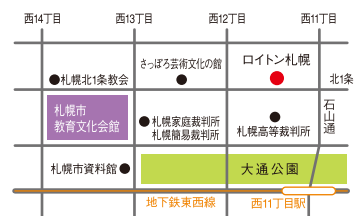
海老と季節野菜のてんぷら、道産中心のお刺身の両方が楽しめる女性にうれしいセット。1,800円(税込)。

【営業時間】

ランチ 11:30~15:30(ラストオーダー 14:00)
ディナー 17:30~22:30(ラストオーダー 21:00)
※会席料理のラストオーダー 20:00

無休

札幌市中央区1条西11丁目
tel.011-271-2711



本屋さんに聞く

伊坂 幸太郎ワールド

紀伊國屋書店札幌本店 小田俊之さん

伊坂さんのファンは最初の頃は20代、30代の男性のお客様が多かったのですが、段々と読者層が広がってきました。今では男女問わず、若い方から年配の方まで購入されていて、文芸書の中ではトップクラスの売れ行きです。伊坂さんの作品にはグイグイと読ませる力があるんですね。先が気になってどんどんページをめくっていく。それに、カルチャー的な要素をつぎ込むのが凄く上手です。例えば音楽であったり俳優であったり。そういうところがオシャレな感

じがしますね。「オーデュボンの祈り」は、なかなか舞台化が難しい作品だと思うんですけど、作品の世界が舞台上でどう繰り広げられるのか、どうやって舞台を組み立てていくのか、とても興味があります。本を読んでいる時は自分の想像力を働かせて読み進めていき、舞台だと視覚も加わるので、ストーリーは同じでもまた違った刺激があるんじゃないか思います。宣伝用のビジュアルは正に伊坂さんの世界を表していますよね。私も楽しみにしています。

伊坂 幸太郎さんの主な著作

- 「オーデュボンの祈り」(新潮ミステリー倶楽部賞)
- ★「ラッシュライフ」 ★「陽気なギャングが地球を回す」
- ★「重力ピエロ」
- ★「アヒルと鴨のコインロッカー」(第25回吉川英治文学新人賞)
- 「チルドレン」「グラスホッパー」「砂漠」
- ★「死神の精度」(第57回日本推理作家協会賞短編部門)
- ★「フィッシュストーリー」
- ★「ゴールデンランパー」(第21回山本周五郎賞、第5回本屋大賞) ほか
- ★は映画化された作品



「演出」ラサール石井 Rasall Ishii

1955年生まれ。渡辺正行、小宮孝泰と、コント赤信号を結成し、1980年デビュー。その後、多くのバラエティ番組に出演し人気を博す。1986年より舞台創作にも活動を広げ、脚本・演出家として幅広く作品を手掛けるようになる。笑いで培った長年の経験から、コメディから不条理劇まで戯曲の種類を問わず、観客に向けて確実に「カタルシス」を届ける作品創りには定評がある。

INTERVIEW

【特集】2 | 舞台「オーデュボンの祈り」

未来に対する希望が感じられるように

人気作家・伊坂幸太郎さんのデビュー作「オーデュボンの祈り」を舞台化！演出を手掛けるラサール石井さんにお話を伺いました。

ファンタジックなミステリー小説「オーデュボンの祈り」。慶長遣欧使節団としてヨーロッパに渡った仙台藩士・支倉常長の策に端を発し、江戸時代から現代に至るまで鎖国を続けている不思議な島・荻島。大切なものが欠けている「という言い伝えが残されているこの島には、反対のことが話さない画家、島のルールとして殺人を許される男、人語を話し未来を予言する案山子など、奇妙なキャラクター達が住んでいる。その島で案山子が殺される。未来がわかるはずなのに何故？偶然その島に渡った主人公がひとつひとつ謎を解いていき、最後には「大切なものが島を満たす」というストーリー。

—— 演出を担当するラサール石井さんは、これまでも喜劇を中心に数々の舞台演出を手掛けてきたエンターテナーですが、原作をどう演出するのでしょうか？

「伊坂さんの作品には救いがあるっていか、爽やかに終わる。それを安直じゃない形で、見終わった後に、未来に対する希望が感じられるようにしたいですね」

—— 未来に対する希望というと、どうしても東日本大震災へとイメージが繋がります。

「考えざるを得ない、です。作中には『FUTURE』というキーワードが出てきますが、その意味は、未来や運命には抗えないけれど、より良い未来を創ることや希望を持って生きていくことはできる、ということなんです」

—— 演劇や音楽など、文化芸術の持つ力ってどういうものだとお考えですか？

「それはもう凄腕力がありますよ。お芝居は一回暗くなってから始まって、また一回暗くなってから明るくなって終わる。その間は闇の中でお客さんと演者が時間を共有するわけです。僕も子供の頃に宝塚を観て、その夢のような時間は忘れないし影響も受けています。そういうのって映像とはちょっと違う。「生の人間がここにいる」というね。そういう力があると思うんですよ」

—— 舞台と小説にはそれぞれ特徴がありますよね？

「伊坂さんは小説にしかできない表現をしている。それを演劇でしかできない表現をする。例えば演劇は、違う空間にいる二人が見つめあったりすることができ。今度の舞台は一人二役をしたりします。同じ人が違う役を演じることで、小説とは違う意味合いが生じたりするじゃないですか。時代を超えたり。それも演劇的なことです。ですから、原作を読んだ方も読んでいない方も、気軽に観ていただきたいですね」

『オーデュボンの祈り』

10月19日(水) 19:00開演 札幌市教育文化会館 大ホール

原作=伊坂幸太郎「オーデュボンの祈り」(新潮文庫刊) 脚本=和田憲明 演出=ラサール石井

出演 = 吉沢悠 / 河原雅彦 石井正則 小林隆 / 武藤見子 小泉深雪 寺地美穂 町田マリー / 春海四方 玉置玲央 陰山泰 / 筒井道隆

料金 = 全席指定 5,500円(教文ホールメイト 5,000円)

チケット取扱 = 教文ブレイクガイド・道新ブレイクガイド・大丸ブレイクガイド・チケットぴあ・ローソンチケットにて発売中

教文ブレイクガイド tel.011-271-3355

お問合せ = 札幌市教育文化会館 事業課 tel.011-271-5822

演劇、オペラ、ダンス。知れば知るほど深まっていく舞台の世界。「観ているだけじゃつまらない」「実際に体験してみたい」そんな皆さまの好奇心にお応えするのが札幌市教育文化会館のワークショップです。



札幌ハプニング アピアランス泥棒

札幌ハプニングとは、マンガや映画でしか見たことのないような「ベタな光景」を現実の世界で再現する、というパフォーマンスを突発的に行う、市民参加型の脱力系街頭演劇ワークショップユニット。今回のテーマは「絵に描いたような泥棒」です。



次々に現れる泥棒を確保し、お縄にして連行。観てる人も演じてる人も笑顔が溢れていました。



「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「新聞やテレビなどでもたびたび紹介され、2011年には北海道立近代美術館で行われた札幌エンターレ・プレ企画に招聘されました。次は街中に登場するのはどんなキャラクターか。あなたも参加してみませんか？ 最新情報は「札幌ハプニング」で検索してみてください。」

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

「この企画は、主に演劇と現代美術の手法を用いて行っています。教育文化会館主催事業の『教文演劇フェスティバル』の一環として2009年から始めました。衝撃的でバカバカしくて、参加する側も見る側も、楽しんで演劇に触れられる企画なので、今後も継続して演劇の魅力を発信していきたいです」とは、当会館スタッフで札幌ハプニングの中心メンバー・山下智博。

やり切ってスッキリした顔つきの泥棒の皆さん。「次回も参加したい！」との声が数多く聞かれました。

立派な泥棒になるためには(?)、ちゃんと勉強も必要なんです。

